

令和5年度 小学部研究について（中間まとめ）

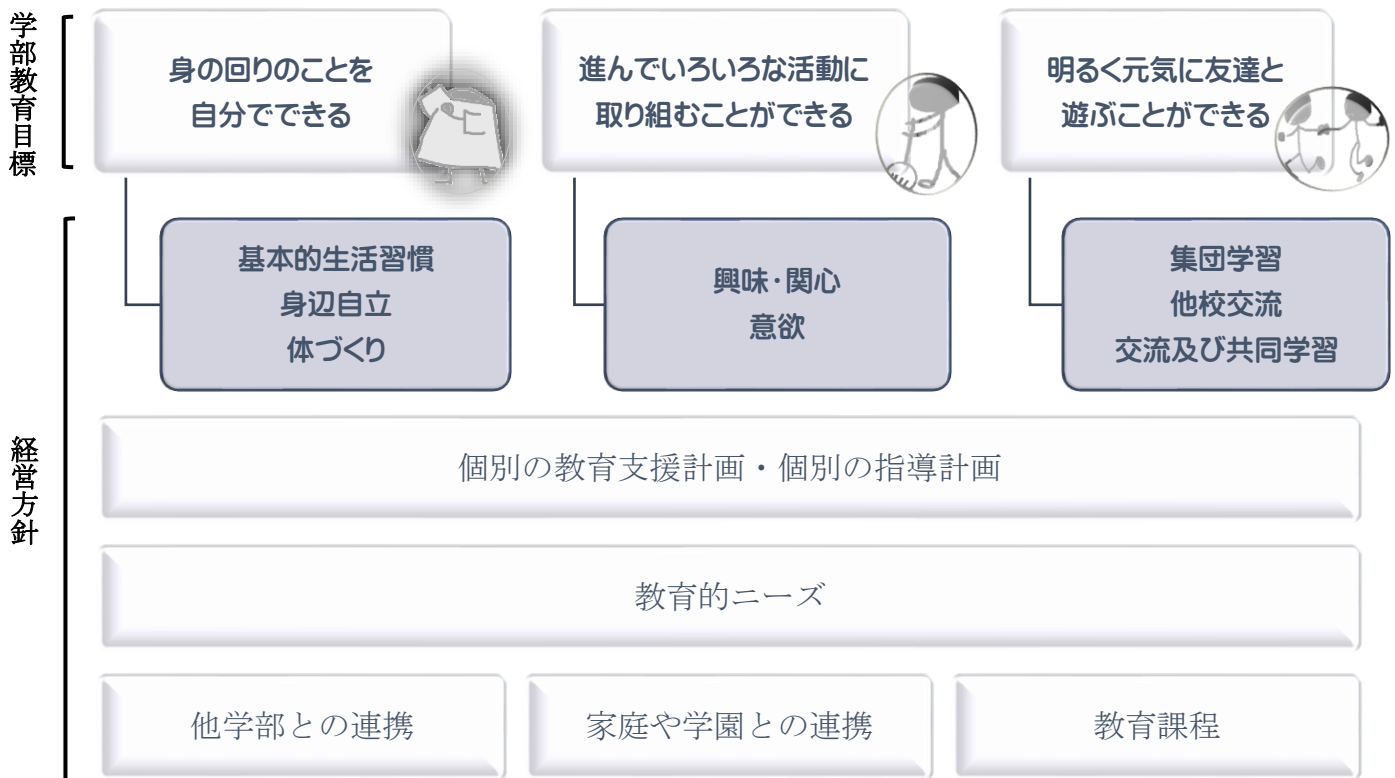
I 研究テーマ

「生涯にわたって学び、成長しようとする力を高める授業実践・指導実践」
～児童一人一人が主体的に学ぶ姿を支える一斉指導の取り組み～

II 研究テーマ設定の理由

1 学校教育目標・学部教育目標から

本校の学校教育目標は「児童生徒一人ひとりが個性と能力を発揮し、可能性を最大限に高め、自立的・主体的な生活を送る」ことである。この目標を目指して、小学部では学部教育目標並びに経営方針を次のように定めている。



小学部が目指す児童像へ向かって、今年度は学部経営方針から下記の内容を取り上げ具現化することで、集団の活動の中でより個別の配慮を明確にしていけるものと考えた。

○児童の興味・関心に基づいた学習を重視し、活動への意欲を高める。【課題分析】

○個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援に努める。【実態把握】

○卒業後の生活を意識した、よりよい支援をめざして他学部との連携を図る。

【生涯にわたって学び、成長しようとする力を高める】

2 児童の実態と職員が感じている難しさから

小学部には、37名の児童が在籍している。実態や発達段階は個々に異なり、一人ひとりの教育的ニーズは多岐にわたっている。

今年度から取り組む新研究テーマを設定するにあたり、前次研究から小学部で力を入れている、教科学習の一斉指導を行う中での児童の実態と、一斉指導を実際に行ってみて職員が感じている難しさについて、年度初めに職員間で協議をした結果を以下に示す。

【児童の実態】

- ・実態差が大きいが、一斉指導の中で互いにかかわりあって学習するようになってきた。
- ・手立てを改善することで学習態度が改善され、学びに向かう力が高められた。

【職員が感じている難しさ】

- ・学級内の児童の実態差が大きく、どのような内容で取り組みればよいかが分からない。
- ・実態差が大きいため、教科学習を行うための教材の準備が難しい。
- ・待ち時間が長く、手持ち無沙汰な時間ができてしまう。
- ・一斉指導だけでは、個々の課題にせまることが難しい。

3 前次研究の成果と課題から

(1) 成果

①各教科と自立活動を関連づけた実践の実施

1年次は国語科および自立活動の【コミュニケーション】に焦点を当てた実践に取り組み、2年次はさらに教科の範囲を広げ、算数や音楽においても自立活動の視点を踏まえた授業づくりを行い、各教科における成果と課題を明らかにすることができた。

②単元計画シートの活用について

学部職員の8割以上が単元計画シートの使い方に慣れて、スムーズに作成することができた。また、学部研究会の協議においても、教科や自立活動のねらいを共通理解するツールとして有効に活用することができた。

③児童の主体性を引き出す授業づくり

「教科指導」と「自立活動」を分けて捉えるのではなく、「自立活動の指導が教科の力を支える」という意識をもとに授業づくりに取り組む中で、各実践において主体的に学ぶ児童の姿を引き出すことができた。

④3観点での支援の手立ての整理

佐々木全准教授による指導助言をもとに、支援の手立てのまとめシートを活用して「ヒト」「モノ」「コト」の3観点で整理した。令和3年度の1年次研究と比べ、グループ協議でより具体的な意見を出しやすくなったほか、話し合いの方向性のずれが少なくなり、職員間で意見を共通理解して授業改善につなげやすくなった。

⑤指導方法・内容の共有

学部研究会における授業実践発表を通して、普段は見る機会の少ない他学級の児童の実態や教科および自立活動の指導の実際を共有する貴重な場とすることができた。動画で学習の様子を見ることで児童の新たな一面を知り、担任以外の職員も児童理解を深めることができた。ま

た、グループ協議を通して得られた授業改善のアイデアは、他学級でもすぐに生かすことのできるものも多く、職員の支援の質を高めることにもつながった。

⑥有効な支援の手立ての整理

実践を通して「児童が主体的に学ぶ姿」を引き出すことができた要因を学部職員で話し合い、整理してまとめることができた。今後、研究テーマが変わっても普遍的な支援の在り方として生かしていけると考える。

(2) 課題

①単元計画シートの活用に向けて

学部研究会での実践発表時において有効に活用することができた一方で、実践終了後の評価を記入していないケースが多く見られた。実践を終えての評価を確実に実施し、授業改善の手掛かりとして活用していけるような仕組みづくりが今後必要である。

②より効果的な指導形態の在り方について

小学部では各教科における一斉指導形式での授業づくりに力を入れてきた。個への支援ありきではなく、集団の中で学び合う姿を目指して学習内容や手立てを工夫することで、友達に働き掛けたり、友達のよい手本を真似てできることを増やしたりする場面が数多くの実践でみられた。その一方で、一斉指導だけでは個々の課題にせまるのが難しい、というような意見も出された。この指導形態の効果については今後も検証するとともに、より効果的な指導形態の在り方を模索していく。

以上のことから、前次研究からも力を入れて取り組んでいる「一斉指導」と「教科指導」の充実を目指すことで、児童の教育的ニーズと職員のニーズの両方にせまることができるのではないかと考えた。そこで、小学部研究のテーマを「児童一人ひとりが主体的に学ぶ姿を支える一斉指導の取り組み」として、授業づくりを追究していきたいと考える。

授業実践においては、一人ひとりの実態把握を大切に、個々の目標にせまることができる教科の一斉指導の充実を図りたい。それにより、確かな知識・技能を身に付けながら、児童一人ひとりが主体的に学習に取り組む姿を引き出すことができると考える。

Ⅲ 研究内容

- 1 学部研究の基本構想と共通理解
- 2 課題分析と実態把握の方法についての検討
- 3 授業づくりシートの改善、活用
- 4 適切な課題分析と実態把握を意識した授業づくり
- 5 PDCA サイクルによる授業改善の取組
- 6 研究のまとめ

Ⅳ 研究計画 【表 1】

月	期日、内容	主な内容
6	2 日 全体研究会①	・ 学部研究について提案・協議
	15 日 学部研①	・ 令和 5 年度前沢明峰支援学校全体研究計画（案）の概要について再周知 ・ 学部研究の方向性について協議 ・ 学部研究のテーマおよび内容、計画等について協議
	23 日 学部研②	・ 授業実践 ・ 事例をもとにした V T R 検討会（6 年 1 組）
7	7 日 授業研究会①（中）	・ 研究会参加
	20 日 学部研③	・ 授業実践 ・ 事例をもとにした V T R 検討会（4・5 年 1 組）（3 年 1 組）
9	7 日 学部研④	・ 授業実践 ・ 事例をもとにした V T R 検討会（6 年 2 組） ・ （小）授業研究会指導案の検討等（6 年 2 組）
	21 日 授業研究会②（小）	・ 提案授業（6 年 2 組）
10	4 日 学部研⑤	・ 授業実践 ・ 事例をもとにした V T R 検討会（2 年生 1 グループ）（1 年 1 組）
	19 日 学部研⑥	・ 授業実践 ・ 事例をもとにした V T R 検討会（1・3 年 2 組）（訪問学級 4 年生）
11	16 日 学部研⑦	・ 授業実践 ・ 事例をもとにした V T R 検討会（6 年 3 組）（訪問学級 1・2 年生）
	17 日 授業研究会③（高）	・ 研究会参加
1	18 日 学部研⑧	・ 授業実践 ・ 事例をもとにした V T R 検討会（2 年生 2 グループ） ・ 学部研究のまとめ（全体研究会②の資料内容検討） ・ 学部内アンケートの集計結果
2	15 日 学部研⑨	・ 学部研究の反省
	22 日 全体研究会②	・ （小）授業研究会の反省

3	7日 学部研⑩	・2年次の研究内容についての意見交換、方向性の確認
---	---------	---------------------------

V 研究の推進にあたって

学部研究の推進にあたっては、第1回全体研究会資料に提示されている以下の点について共通理解を進めながら取り組んでいくこととする。(第1回全体研究会資料V参照)

- 1 授業実践
- 2 授業づくりシートの改善、活用

VI 研究の実際

1 課題分析と実態把握の方法についての検討

児童一人ひとりの実態把握を正確に行えるよう、年度当初に実態把握表を作成し、個々の課題分析を行い、適切に学習を進めることができるよう検討した。通常学級用には、特別支援学校学習指導要領解説の1～3段階の目標を参考に、国語・算数それぞれの実態把握表【表2】を作成し、重複学級用には、遠城寺式乳幼児分析的発達検査を参考に、実態把握表【表3】を作成した。通常学級用の国語・算数の実態把握表では、1・2年生は1段階、3・4年生は2段階、5・6年生は3段階のシートを使って個々の実態を見取り、達成度合いによっては段階を上げたり下げたりして個々の課題の見取りに活用した。

【表2】通常学級用 実態把握表

児童名 ()		習熟度 (○できる△もう少し▼難しい)					
特別支援学校 小学部 国語 <1段階>		取り組んだ学年 □					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
知識及び技能	ア	(7) 身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事の内容を表していることを感じること。					
		(4) 言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりすること。					
	イ	(7) 昔話などについて、読み聞かせを聞くなどして親しむこと。					
		(4) 遊びを通して、言葉のもつ楽しさに触れること。					
思考力・判断力・表現力等	ア	(9) 書くことに関する次の事項を理解し使うこと。					
		⑦いろいろな筆記用具に触れ、書くことを知ること。					
		⑧筆記用具の持ち方や、正しい姿勢で書くことを知ること。					
	イ	(1) 読み聞かせに注目し、いろいろな絵本などに興味をもつこと。					
読むこと	ア	教師の話や読み聞かせに応じ、音声を模倣したり、表情や身振り、簡単な話し言葉などで表現したりすること。					
	イ	身近な人からの話し掛けに注目したり、応じて答えたりすること。					
	ウ	伝えたいことを思い浮かべ、身振りや音声などで表すこと。					
	エ	身近な人との関わりや出来事について、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること。					
書くこと	ア	文字に興味をもち書こうとすること。					
	イ	教師と一緒に絵本などを見て、示された身近な事物や生き物などに気付く、注目すること。					
	ウ	絵本などを見て、知っている事物や出来事などを指さしなどで表現すること。					
	エ	絵や矢印などの記号で表された意味に応じ、行動すること。					

児童名 ()		習熟度 (○できる△もう少し▼難しい)					
特別支援学校 小学部 算数 <1段階>		取り組んだ学年 □					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
A 数量の技能	知識及び技能	②具体物に気付いて指を置いたり、つかもうとしたり、目で通ったりすること。					
		②目の前で隠されたものを探したり、身近にあるものや人の名を聞いて指を置いたりすること。					
	数、判、表	②対象物に注意を向け、対象物の存在に注目し、諸感覚を協応させながら捉えること。					
	対応させるもの	②ものともとの対応させて配ること。					
B 数と計算	知識及び技能	②分割した絵カードを組み合わせること。					
		②関連の深い絵カードを組み合わせること。					
	数えることの基礎	②ものともとの関連付けに注目し、ものの属性に注目し、仲間であることを判断したり、表現したりすること。					
	数、判、表	②ものともとの関連に注目し、数のまとまりや数え方に気付く、それらを学習や生活で生かすこと。					
C 図形	知識及び技能	②ものの有無に気付くこと。					
		②目の前のものを、1個、2個、たくさんで表すこと。					
		②5までの範囲で数唱をすること。					
		②3までの範囲で具体物を取ることを。					
D 測定	知識及び技能	②対応させてものを配ること。					
		②形や色、位置が変わっても、数は変わらないことについて気付くこと。					
	数、判、表	②数詞とものとの関係に注目し、数のまとまりや数え方に気付く、それらを学習や生活で生かすこと。					
	もの	②具体物に注目して指を置いたり、つかもうとしたり、目で通ったりすること。					
D 図形	知識及び技能	②形を観点に区別すること。					
		②形が同じものを選ぶこと。					
		②似ている二つのものを結び付けること。					
		②関連の深い一対のものや絵カードを組み合わせることを。					
D 図形	知識及び技能	②同じものの同士を集めづりをする。					
		②対象物に注意を向け、対象物の存在に気付く、諸感覚を協応させながら具体物捉えること。					
	数、判、表	②ものの属性に着目し、様々な情報から同質なものや類似したものに気付く、日常生活の中で関心をもつこと。					
		②ものともとの関係に注意を向け、ものの属性に気付く、関心をもって対応しながら、表現する仕方を身につけ出し、日常生活で生かすこと。					
D 測定	知識及び技能	②大きさや長さなどを、基準に対して同じか違うかによって区別すること。					
		②ある・ない、大きい・小さい、多い・少ない、などの用語に注目して表現すること。					
	数、判、表	②大小や多少等で区別することに関心をもち、量の大きさを表す用語に注目して表現すること。					

【表3】重複学級用 実態把握表

小学部	年	記入日	年	月	日	記入者
4歳8か月	スキップができる	紙飛行機を自分で折る	ひとりで着衣ができる	砂場で二人以上で協力して一つの山を作る	文章の復唱 子供が二人ブランコに乗っています。 山の上に大きな月が出ました。 きのうお母さんと買物に行きました。	左右がわかる
4歳4か月	ブランコに立ちのりしてこぐ	はずむボールをつかむ	信号を見て正しく道路をわたる	ジャンケンで勝負をきめる	四数詞の復唱 5-2-4-9 6-8-3-5 7-3-2-8	数の概念がわかる (5まで)
4歳0か月	片足で数歩とぶ	紙を直線にそって切る	入浴後、ある程度自分で体を洗う	母親にことわって友達の家遊びに行く	両親の姓名、住所を言う	用途による物の指本、鉛筆、時計、いす、電話。
3歳8か月	幅とび (両足をそろえて前にとぶ)	十字をかく	鼻をかむ	友達と順番にものを使う (ブランコなど)	文章の復唱 きれいな花がさいています。 飛行機はそらを飛びます。 じょうずに歌をうたいます。	数の概念がわかる (3まで)
3歳4か月	でんぐりがえしをする	ボタンをはめる	顔をひとりで洗う	「こうしていい？」と許可を求める	同年齢の子供と会話ができる	高い、低いがわかる
3歳0か月	片足で2〜3秒立つ	はさみを使って紙を切る	上着を自分で脱ぐ	ままごとで役を演じることができる	二語文の復唱 小さな人形、赤いふうせん、おいしいお菓子	赤、青、黄、緑がわかる
2歳9か月	立ったままくるとまわる	まねて○をかく	靴をひとりではく	年下の子供の世話をやきたがる	二数詞の復唱 5-8 6-2	長い、短いがわかる
2歳6か月	足を交互に出して階段をあがる	まねて直線を引く	こぼさないでひとりで食べる	友達とけんかをすると言いつけにくる	自分の姓名を言う	大きい、小さいがわかる
2歳3か月	両足でびよんびよん飛ぶ	鉄棒などに両手でぶらさがる	ひとりでパンツを脱ぐ	電話ごっこをする	「きれいな」「おいしいね」などの表現ができる	鼻、髪、歯、舌、へそ、爪を指示する
2歳0か月	ボールを前にける	横木を横に二つ以上ならべる	排尿を予告する	親から離れて遊ぶ	二語文を話す (「わんわんきた」など)	「もうひとつ」「もうすこし」がわかる
1歳9か月	ひとりで一段ごとに足をそろえながら階段をあがる	鉛筆でぐるぐるまるをかく	ストローで飲む	友達と手をつなぐ	絵本を見て三つのものの名前を言う	目、口、耳、手、足、腹を指示する
1歳6か月	走る	コップからコップへ水をうつす	パンツをはかせるとき両足をひろげる	困難なことに会おうと助けを求める	絵本を見て一つのものの名前を言う	絵本を読んでもらいたがる
1歳4か月	靴をはいて歩く	横木を二つ重ねる	自分の口もとをひとりでふこうとする	簡単な手伝いをする	3語言える	簡単な命令を実行する 「新聞を持っていらっしゃい」など。
1歳2か月	2〜3歩あるく	コップの中の小粒をとり出そうとする	お菓子のつつみ紙をとって食べる	ほめられると同じ動作をくり返す	2語言える	要求を理解する(3/3) おいで、ちょうだい、ねんね
1歳0か月	座った位置から立ちあがる	なぐり書きをする	さじで食べようとする	父や母の後追いをする	ことばを1〜2語、正しくまねる	要求を理解する(1/3) おいで、ちょうだい、ねんね
0歳11か月	つたい歩きをする	おもちゃの車を手で走らせる	コップを自分で持って飲む	人見知りをする	音声をまねようとする	「バイバイ」や「さようなら」のことばに反応する
0歳10か月	つかまって立ちあがる	びんのふたを、あけたりしめたりする	泣かずに欲求を示す	身ぶりをまねする (オツムテンテンなど)	さかんにおしゃべりをする (補語)	「いけません」と言うと、ちょっと手をひっこめる
0歳9か月	ものにつかまって立っている	おもちゃのたいこをたたく	コップなどを両手で口を持っていく	おもちゃをとられると不快を示す	タ、ダ、チャなどの音声が 出る	
0歳8か月	ひとりで座って遊ぶ	親指と人さし指でつかもうとする	顔をふこうするといやがる	鏡を見て笑いかけたり話しかけたりする	マ、バ、パなどの音声が 出る	
0歳7か月	腹ばいで体をまわす	おもちゃを一方の手から他方に持ちかえる	コップから飲む	親しみと怒った顔がわかる	おもちゃなどに向かって声を出す	親の話し方で感情をききわける(禁止など)
0歳6か月	寝がえりをする	手を出してもをつかむ	バスケットなどを自分で食べる	鏡に映った自分の顔に反応する	人に向かって声を出す	
0歳5か月	横向きに寝かせると寝がえりをする	ガラガラを振る	おもちゃを見ると動きが活発になる	人を見ると笑いかける	キャーキャー言う	母の声と他の人の声をききわける
0歳4か月	首がすわる	おもちゃをつかんでいる	さじから飲むことができる	あやされると声を出して笑う	声を出して笑う	
0歳3か月	あおむけにして体をおこしたとき頭を保つ	親にふれたものを取ろうとして手を動かす	顔に布をかけられて不快を示す	人の声がする方に向く	泣かずに声を出す (アー、ウァ、など)	人の声でしずまる
0歳2か月	腹ばいで頭をちょっとあげる	手を口を持っていてしゃぶる	満腹になると乳首を舌でおし出したたり顔をそむけたりする	人の顔をじいっと見つめる	いろいろな泣き声を出す	
0歳1か月	あおむけでときどき左右に首の向きをかえる	手にふれたものをつかむ	空腹時に抱くと顔を乳の方に向けてほしがる	泣いているとき抱きあげるとしずまる	元気な声で泣く	大きな音に反応する
	移動運動	手の運動	基本的習慣	対人関係	発語	言語理解
	運動(身体の動き)		社会性(健康の保持・人間関係の形成・心理的な安定)		言語(コミュニケーション・環境の把握)	

2 授業づくりシートの改善、活用

授業実践を軸とした研究を進めるにあたり、単元計画シートの改善を行った。前年度まで活用してきた単元計画シートの様式は、自立活動の指導と教科指導を意識できるよう、自立活動の目標を書く欄や関する教科・領域を書く欄を設けていた。今年度からは研究テーマとして、教科指導を主とした一斉指導を掲げているため、次のような様式に変更した。

単元計画シート（小学部） 【 年 組】 ※対象が個人の場合は氏名を記入				R 4 ver.
単元名			教科名	指導者
自立活動の目標	※個別の指導計画から転記			
単元の目標	知識・技能			
	思考力・判断力・表現力			
	学びに向かう力、人間性等			
関する教科・領域	主な指導内容			
例：国語	3段階 ア（エ）言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと（カ）正しい姿勢で音読すること			
単元計画（日時・次）	活動名	時数	主な活動内容	
評価の観点（単元）		成果（○□△）※と課題（▲）		改善策
知・技	～することができたか			
思・判・表				
主体性				

※自主的・主体的に行動したとき○ 注意喚起を要したとき□ 行動の指示を要したとき△

【図 1】単元計画シート（旧 ver.）

単元計画シート（小学部） 【 年 組】

単元名			教科名		指導者	
単元に該当する指導要領の内容						
単元の目標	知識・技能					
	思考力・判断力・表現力					
	学びに向かう力、人間性等					
個人の目標						
単元計画（日時・次）	活動名	時数	主な活動内容			
支援の手立て	ヒト（伝達と共感）	モノ（道具と場の設定）		コト（活動内容と展開）		

【図 2】単元計画シート(新 ver.)

このように、個人の教科における目標を記入する欄を新設したほか、昨年度から学部研究会での協議の際に用いている手立てのまとめシートと合わせて、支援の手立てをヒト・モノ・コトの3観点で記入できるように改善した。この単元計画シートと併せて実態把握表を活用することで、一人ひとりの課題が明確になり、一斉指導内でも個々の課題へせまることができるような手立てを立てやすくなると考えた。

3 PDCA サイクルによる授業改善の取組

（1）授業実践と授業改善の取組

今年度は通常学級では、一斉指導による教科学習の授業実践、重複学級でも一斉指導を取り入れた自立活動の授業実践に取り組んだ。毎月の学部研究会では、各学級の取組についてグループ協議を行い、活動内容や手立て等について活発な意見交換を行うことで授業を改善してきた。PDCA サイクルによる授業改善の手順を、小学部通常学級4・5年1組を例にし、以下に示す。

①実践発表

授業者より、VTR 視聴を含む 10 分間の発表を行う。単元計画シート【図 3】をもとに学級内の児童の教科学習における目標を確認し、共通理解する。

単元計画シート（小学部） 【４・５年１組】

単元名	数を数えよう、比べよう		教科名	算数	指導者	阿部大樹、佐々木陽菜、田中美和
単元に該当する指導要領の内容	3段階 知技 20 までの数について、数詞を唱えたり、個数を数えたり書き表したり、数の大小を比べたりすること。 思判表 数のまとまりに着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、学習や生活で生かすこと。					
単元の目標	知識・技能	具体物の数を数えたり、2つ以上の数を比べて「大きい・小さい（多い・少ない）」を答えたりすることができる。				
	思考力・判断力・表現力	具体物を分類したり、まとめたり、並べたりするなどして、工夫しながら数を数えたり、比べたりする。				
	学びに向かう力、人間性等	いろいろな物の数を数えることが分かり、友達や教師と一緒に進んで活動する。				
個人の目標	A 児	ものの集まりと対応して数詞が分かる。			B 児	10 までの具体物を数え、数の大小が分かる。
	C 児	20 までの具体物を 10 のまとまりと端数に分けて数えたり、比べたりする。			D 児	20 までの具体物を数えたり、3つ以上の数を比べて大小を答えたりする。
	E 児	ものともとの対応させることができる。			F 児	10 までの具体物を数え、数の大小が分かる。
単元計画（日時・次）	活動名		時数	主な活動内容		
第 1 次	1 から 10 までの数		2	① 数の絵本を読もう（1～10） ②数字カード並べ		
第 2 次	果物はいくつ		3	① 数の絵本を読もう（11～20） ②果物を数えよう、比べよう		
第 3 次	魚釣りゲーム～勝ったのはだれ～		4	① 魚を数えよう、比べよう（個人戦、チーム戦）		
第 4 次	振り返ろう		1	① 振り返りテスト ②振り返りプリント		
支援の手立て	ヒト（伝達と共感）		モノ（道具と場の設定）		コト（活動内容と展開）	
	・いろいろな数え方や考え方がることが分かるように、児童の良い気付きなどは全体に伝えたり、称賛したりする。 ・友達や教師とやりとりをしながら取り組むことができるように、グループでの活動を設定する。		・物を操作しながら数えられるように、果物や魚のマグネットカードを用意する。 ・児童同士で数を比べやすいように、10マスに仕切られた同じ規格のホワイトボードを児童の人数分用意する。		・楽しく最後まで活動できるように、ゲームの要素を取り入れる。また、使用する道具やルールを変えるなど、活動に変化を加えながら行う。	

【図3】 4・5年1組通常学級 単元計画シート

②グループ協議

4～6名程度の少人数グループになり、協議の柱について15分間話し合いまとめる。今年度は通常学級の協議の柱は統一して、「一人ひとりの資質能力を高める手立て」「協働的な学びを促す手立て」と設定し、重複学級は授業者と実践研究部員とで設定した。

【表4】 4・5年1組の授業実践 VTR からグループ協議で出された意見

一人ひとりの資質能力を高める手立て （成果◎ 課題△）	
ヒト	◎C 児が数える→自信に繋がる ◎グループでの助け合いや、分け方の工夫（相性や実態差）
モノ	◎ペアにすることで一人ひとりができることを分担できていて、学びに繋がっている。 ◎物の操作によって数への学びになっている。 ◎全員で同じテーマに取り組んでいる。 ◎児童の興味を引く魚釣りゲームで取り組んでいた。 ◎個に合わせた教材の工夫 ◎分かりやすく、見通しをもちやすい題材 △E 児のホワイトボードには数字をつけていたほうが分かりやすい。
コト	◎大きな題材の中に、個々の目標を当てはめていた。 ◎個別の活動→グループ活動でやる気 up ◎繰り返しにより定着、変化をもたせることによる気付き

協働的な学びを促す手立て （成果◎ 課題△）	
ヒト	◎B 児が A 児に教える場面があり、A 児にとってはヒントに、B 児にとっては自信に繋がってよい。 ◎10 にまとまりに気付きを促す。 ◎友達の様子に興味を示して見る ◎二人組、三人組と人を増やすことでより友達を意識
モノ	◎ペアにしている。 ◎力を合わせて魚の数を増やしている。 →他へのリスペクトにも繋がる ◎コの字型の配置、真ん中で魚釣りの形がよい。
コト	◎ゲーム的要素を取り入れている（数える、比較、勝敗）。 ◎個の場面、集団（グループ）の場面の設定が学び合いに繋がっている。 △点数が低そうな児童を先にして、勝つための作戦を立てる経験もよいのでは。

③全体での共通理解

協議で挙げられた支援の在り方および次時への改善点を発表し、参加者全員で共通理解を図る。それを踏まえて今後の授業の展開について授業者が述べる。授業者は単元がすべて終了した後、単元計画シートの評価欄【図 4】に記入して自分自身の振り返りに生かす。

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力、人間性等
	・具体物の数を正しく数えることができたか。 ・2つ以上の物を比べ「どちらが大きい」「どれが一番大きい」などの問いに答えることができたか。	・具体物を分類したり、まとめたり、並べたりするなどして、工夫しながら数を数えたり、比べたりすることができたか。	・果物や魚などのカードの数を数えることが分かり、友達や教師と一緒に進んで活動に取り組んだか。
成果と課題	・ほとんどの児童が、具体物を正しく数えることができた。 ・半数の児童が、数量を比べて「大きい・小さい」を答えることができた。 ・一部の児童は、ものともを対応させることまではできたが、具体物の数を数えることは難しかった。また、「大きい・小さい」を答えることも難しかった。	・2・3種類の具体物を仲間分けすることができた。 ・数えやすいように、具体物を並べたり、まとめたりするなど、工夫する様子が見られた。 ・10 マスのホワイトボードを使用したことで、児童によっては 10 のまとまりを意識して数えることができるようになった。 ・ホワイトボードの活用方法が分からない児童がいた。	・ゲームや数を数えること等、大まかな活動内容が分かり、進んで取り組んだ。 ・ゲーム要素を取り入れることで、競い合いを楽しみながら活動できた。 ・グループで取り組む活動を設定することで友達同士教え合う等の関わりが見られた。 ・活動を繰り返すことで定着を図りたいが、同じ活動ばかりだと、集中が続かない児童が多い。
改善策	・一対一対応や少ない個数の具体物を指さして数える活動を繰り返し行い、定着を図る。 ・比べること自体に難しさがあるため、数以外にも大きさや長さなど、いろいろなものを比べる経験を増やす。	・ホワイトボードに貼った具体物の数と数字とが一致するように、ホワイトボードのマス目に 1～10 の数字を書く。	・最後まで取り組めるように、繰り返しの活動を基本としつつ、少しずつ活動に変化を付けていく。（例：魚釣りゲームの 1 回目は個人戦、2 回目はグループ戦にする等）

名前	変容	今後取り組みたいこと
A 児	数字カードを見て、数の分だけボードに魚を貼ることができるようになった。	数字と数量の一致、
B 児	2 つの数を比べて、数の大小を答えることができた。	3 つ以上の数の比較、
C 児	10 のまとまりを意識して、10 以上の数を数えられるようになった。	100 のまとまりで数える、数の比較（いくつ分多いか）
D 児	3 つの数を比べて、数の大小を答えることができた。	10 のまとまりで数える、数の比較（いくつ分多いか）
E 児	釣った魚をホワイトボードのマスに貼ることが分かり、取り組めるようになった。	1 対 1 対応、数字と数量の一致
F 児	具体物の数を見て、数字を答えることができた。	3 つ以上の数の比較、

【図 4】評価欄記入後の 4・5 年 1 組単元計画シート

（２）授業研究会の実施について

全体研究会の中で計画している授業研究会については、６年２組の算数の一斉指導を提案授業として設定した。概要を【表５】に示す。

【表５】第２回授業研究会提案授業の概要

日時	令和５年９月２１日（木）
提案授業の内容	小学部６年２組 算数科「ものをくらべよう」 （９月１２日（水）５校時実施）
授業者	大森響生教諭（Ｔ１）
研究会の参加者	３９名（指導助言者１、授業者１、進行１含む）
指導助言	岩手大学大学院 佐々木全准教授

提案授業では資料として、以下の①～②を配付した。

①学習指導略案

②単元計画シート【図５】

単元計画シート（小学部） 【６年２組】

単元名	ものをくらべよう	教科名	算数	指導者	大森響生
単元に該当する指導要領の内容	１段階Ｃ測定 知識及び技能 ⑦大きさや長さなどを、基準に対して同じか違うかによって区別すること。 ⑧ある・ない、大きい・小さい、多い・少ない、などの用語に注目して表現すること。 ⑨大小や多少等で区別することに關心をもち、量の大きさを表す用語に注目して表現すること。 ２段階Ｃ測定 知識及び技能 ⑦長さ、重さ、高さ及び広さなどの量の大きさが分かること。 ⑧二つの量の大きさについて、一方を基準にして相対的に比べること。 ⑨長い・短い、重い・軽い、高い・低い及び広い・狭いなどの用語が分かること。 ⑩長さ、重さ、高さ及び広さなどの量を、一方を基準にして比べることに關心をもったり、量の大きさを用語を用いて表現したりすること。 ３段階Ｃ測定 知識及び技能 ⑦長さ、広さ、かさなどの量を直接比べる方法について理解し、比較すること。 ⑧身の回りにあるものの大きさを単位として、その幾つ分かで大きさを比較すること。				
単元の目標	知識・技能	物の大小を表す言葉を知り、基準となる物に対しての大小を判断することができる。			
	思考力・判断力・表現力	物の大小を比べる方法が分かり、具体物を直接比較することができる。			
	学びに向かう力、人間性等	進んで物の比較の活動に取り組もうとする。			
個人の目標	A児	物の大小を比べる方法やそれを表す用語を知り、直接比較することができる。		B児	物の大小を表す用語を知り、それを使って大小を表現することができる。
	C児	物の大小を比べる方法が分かり、基準に対しての大小を判断することができる。		D児	物の大きさや長さなどの量の違いに注目し、大小を区別することができる。
単元計画（日時・次）	活動名	時数	主な活動内容		
8/28(月)～9/1(金)	大きさ・長さ・個数を比べよう	５時間	ボールの大きさ・棒の長さ・お菓子の個数を比べる		
9/11(月)～9/15(金)	重さ・高さ・多少を比べよう	５時間	身近な物の重さ・身長の高さ・ジュースの量を比べる		
支援の手立て	ヒト（伝達と共感）	モノ（道具と場の設定）		コト（活動内容と展開）	
	・具体物を直接比較できるように「端をそろえる」「同じ容器に入れる」などの要点を伝える。	・比べる対象物に興味に向くよう、できるだけ身近な教材を用意する。 ・直接操作して比べることができるよう、一人でも扱いやすい教材を用いる。		・大小を表す言葉が分かるよう、その日に比べる物の大小を表す言葉を、初めにみんなで声に出して確認し、板書を残しておく。	

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	- 様々な物の大きさを表す言葉を知り、使うことができたか。 - 基準となる物に対しての大きさを判断することができたか。	物の大きさを比べる方法が分かり、具体物を操作して直接比較することができたか。	粘り強く思考し、進んで物の比較の活動に取り組もうとしていたか。
成果と課題			
改善策			

【図5】単元計画シート

授業研究会はワークショップ形式で行い、参加者は5つのグループに分かれて授業者が設定した協議の柱に沿って、授業の成果と課題、改善策について意見交換を行い、ワークシートを作成した。そのワークシートの記述からテキストマイニングによるキーワードの抽出とそれらの関係性を図式化した共起ネットワーク図の作成を行い、成果と課題をまとめた。これらを【表6】に示す。なお、課題・改善策に関しては記述数が少ないため、テキストマイニングは行わず、複数出された記述を中心にまとめている。

【表6】授業研究会の成果および課題

協議の柱1：一人ひとりの資質能力を高める手立てについて	
成 果	A：個に合った個別課題（チャレンジタイム）が用意されていたこと、個別の課題から学習が始められたこと B：個の実態に合わせた、児童の興味を引く教材の準備、個に応じた場の設定 C：集中して取り組める環境づくり、児童が互いに見える、教師が見やすい机の配置 D：授業の流れが一定で見通しをもちやすかった E：「多い・少ない」の言葉の意味理解ができてい。
	・コップの工夫（コップの配置、色分け、印をつける、基準となるコップの用意など） ・「多い・少ない」の言葉の意味の吟味
協議の柱2：協働的な学びを促す手立てについて	
成 果	A：集団において、友達の動き、学習の様子を見ることによる学び合い、一斉指導の工夫 B：児童みんなで一緒に正解を確認していた C：みんなでできるビンゴゲームがよい D：実物（ジュース）を比べるよさ、ジュースを飲めることへの意欲 E：「おい・すくない」カードの活用よさ
	・児童の活動の工夫（児童同士のかかわり、児童が実物を操作する活動を増やす） ・振り返りによる学習の定着

VII 研究のまとめ

一斉指導の視点を踏まえ、児童一人ひとりが主体的に学習に取り組む姿を目指して取り組んできた今年度の小学部研究について、1年次の成果と2年次に向けた課題を以下にまとめる。

1 成果

(1) 一斉指導における職員の意識の変化、児童の変容

前年度の研究から小学部で力を入れている一斉指導についての理解を、学部研究会を進めていくごとに深めることができたと考える。前年度からの課題として「一斉指導だけでは個々の課題にせまることが難しい」との意見があったが、今年度の学部職員アンケートで「一斉での指導を考える上で、個々のねらいを達成するために工夫をするようになったことが大きな成果だと考える」「個々の実態に加え、集団としての実態を考慮した授業を意識するようになった」など、一斉指導に対して前向きな意見が多く挙げられていた。また、児童の様子として「着席して話を聞く、挙手をして発言をするなどの学習ルールが身に付き、授業が成立するようになった」「授業に見通しをもち、落ち着いて主体的に取り組む様子が多くみられるようになった」「友達の取り組む姿を見て授業に参加できるようになった、できることが増えた」などの意見が挙げられていることから、一斉指導を取り入れている多くの学級で、児童が主体的に授業に取り組むことができるようになってきていると言える。

(2) 授業づくりシートの活用について

昨年度までの研究で活用してきた単元計画シートを、教科学習における個々の目標を記入する欄を設けるなど、今年度からの研究内容に合わせて改善した。今年度も、例年と同じように全学級が実践に取り組んだため、職員の半数以上がこのシートの作成に関わることができた。学部職員アンケートでは、シートの様式について「使いやすかった」「分かりやすかった」と答える人の割合が9割を超えたほか、「児童一人ひとりの欄が設けられたので書きやすくなったと感じた」「分量も妥当、継続して記入していくことで負担も少ないように感じる」などの意見が挙げられた。

また、今年度から新しく作成した実態把握表についても小学部職員の9割以上が「使いやすかった」「分かりやすかった」と答えた。その中で、「児童の実態を改めて客観的に把握することができた」「一人ひとりがどこまでできているか明確になり、どこを目指して指導していけばよいか分かりやすかった」などの意見が挙げられた。

(3) 授業改善の取組について

すべての学級が一実践を行い、学部研究会の中で実践を発表する機会を設定することができた。今年度も引き続き、VTR検討という形式をとったことで、実際に学習に取り組む児童の姿を職員全体で確認し、その姿をもとにより具体的な授業改善のアイデアを出し合うことができた。職員アンケートでは「他学級の児童の実態や、多様な支援の方法を知ることができて勉強になった」「自分自身の授業を見直すきっかけになってよかった」「少人数グループでの話し合いだったため、意見を出しやすかった」等の肯定的な意見が数多く寄せられた。次年度もこの形式で行っていくことで、より児童の実態や職員のニーズに寄り添った研究を進めていくことができるのではないかと考える。

2 課題

(1) 各教科や教育課程との一斉指導の関連について

今年度は国語・算数に焦点を当てた取組を通して、児童一人ひとりが主体的に学習に取り組めるような一斉指導の形態を考えてきた。

学部職員アンケートからは「生活単元学習や、他教科の一斉指導についても学べる機会があるとよい」「児童同士の関わりを増やす授業づくり」などの記述もみられることから、教科を限定せず、どのような教科でも実践できるようなよりよい一斉指導の在り方について検討していく必要がある。また、今年度は一斉指導をテーマに授業実践を行ったため、重複学級でも自立活動を一斉指導で実践していたが、「通常学級にならう形ではなく、重複学級でも取り組みやすいテーマがあるとよい」という意見も出ていることから、異なる教育課程でも共に学び合える内容で授業実践のテーマ設定できると尚よいと思われる。

(2) 授業実践後の授業づくりシートの活用、様式について

単元計画シートの活用として、昨年度の課題の中に「授業実践後に評価を記入していない」というものが挙げられていた。今年度は期限を設けて授業実践後に評価を記入したデータを、まとめたが、そのデータを学部職員間で共有する機会を設けることができていなかった。学部職員アンケートからも「学部研究会での協議を受け、再度授業実践を行って変容を見るといった機会があるとよい」という意見が出ているため、次年度以降は記入した後の活用方法についても検討していく必要がある。

単元計画シートの様式については、「まとめられていて書きやすかった」「負担なく書くことができた」等、おおむね肯定的な意見が多かった一方で、課題点もいくつか挙げられた。

- ・ 重複学級の場合は、既存の単元計画シートを若干変えなければ記入できないところがあった。
- ・ 通常学級と重複学級、どちらのパターンもあるとよいと思った。

これらの課題を踏まえて、重複学級の職員からの意見を取り入れるなどしながら、どの学級、教育課程でも使いやすいよう改善していきたい。

また、今年度から新しく取り入れた実態把握表の様式についても「チェックしやすかった」等の肯定的な意見もある一方で、課題点も挙げられた。

- ・ 実態把握表を学年ごとで使うと、実態に応じていないように感じられることもあった。
- ・ 重複学級の中でも教科学習をしている類型 A2 の児童もいるため、教育課程でごとに実態把握表を作成して活用するのはどうか。

次年度に向けて改善すべき点が多く挙げられたため、個々に応じた実態や教育課程に合わせて使用できるような実態把握表に改善させる必要がある。

【参考・引用文献】

- (1) 文部科学省：特別支援学校 小学部・中学部学習指導要領、2017
- (2) 文部科学省：特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）、2018
- (3) 黒川徹：遠城寺乳幼児分析の発達検査法について 認知神経科学 vol. 23 No. 2、2021
- (4) 前沢明峰支援学校小学部：令和4年度小学部研究 前沢明峰支援学校HP、2022
- (5) 前沢明峰支援学校：令和5年度第1回全体研究会資料、2023